

# 災害時とアマチュア無線

## 横浜市アマチュア無線非常通信協力会とは？

昨今、海外、国内を問わず大きな災害が発生しています。

関東地域、東海沖地震などいつ大きな地震が起きてもおかしくないと言われています。

地震、台風など、自然災害は予期無く発生します。そのような場合に必要なのが情報です。**迅速かつ的確な情報が安心を与えること**にもなり、ひいては**災害、被害の拡大を防ぐこと(減災)**につながります。

私どもは持てる技術を少しでもこうした場面に協力しようということで、**ボランティア活動**ではありますが、アマチュア無線の持つ技術を用いて地域貢献が出来るよう、非常通信協力会活動を行っています。青葉区では**区役所を中心とした協力体制を敷いております**。避難拠点との通信確保の為の実証実験をはじめ、会員の皆さんと日々の通信訓練も行いながら、いざというときに活動出来る体制構築に向けて頑張っている会です。

地域の皆さん、また、周辺の区及び市との連携を取った活動展開を実施しております。また、円滑な運営を目指し、ご協力いただける会員のお誘い等をしてより良い会づくりに邁進しております。これからも皆様方のご支援、ご協力でさらに後に良き非常通信協力会を目指して行きたいと思っております。

## 災害時にアマチュア無線で情報伝達を行うボランティア組織です

大震災時には、有線電話も携帯電話も殆ど使えなくなります。身の安全が確保されたら次に大切なのは、情報です。正しい情報がパニックを静め、冷静な判断と行動を助け被害の縮小に大きな効果をもたらします。このことは過去の**大災害で経験実証**されています。そこで災害に強いアマチュア無線によって災害時の情報伝達を行うボランティア組織が、横浜市アマチュア無線非常通信協力会です。

## 行政と協力関係にあるボランティア組織です

昭和47年に横浜市の要請により発足した横浜市アマチュア無線非常通信協力会は横浜市長と協定を締結したボランティア組織です。今日では市役所および全18区役所の総務課にアマチュア無線局が設置されており、災害時には情報伝達の統制局を務めます。活動は区単位のボランティア活動が中心になっています。

## 災害時の情報伝達手段の現状

横浜市の全区内には、多数の地域防災拠点や広域避難場所が設けられていますが、これらの場所には災害時に備えた情報伝達手段としてデジタル防災無線設備が設置されつつありますが、未だ十分とはいえません。

従って避難場所からの被害状況や救援要請等の連絡、また行政側からの避難誘導情報や救援物資配付情報、ライフライン・生活施設等の復旧情報等も的確に伝えられないおそれがあります。

## 会員の主な役割

区役所と地域防災拠点や広域避難場所、または拠点間などの情報伝達を担うのが、横浜市アマチュア無線非常通信協力会の会員の主な役割です。区役所統制局の運用も協力会員が担います。

## 各区には支部があります

横浜市の全18区それぞれにおいては、横浜市アマチュア無線非常通信協力会の各支部が、区役所に設置されたアマチュア無線局(区役所クラブ局)を核として主体的に活動をしています。青葉区では、青葉区役所クラブ局(JO1YTS)が、総務課に設置され、アンテナは屋上のアンテナ塔にあります。



青葉区役所内に設置されたアマチュア無線機器

